|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | | | |
| **学校経営推進費評価報告書（２年め）** | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| **１．事業計画の概要** | | | | | | | | | | | | | | | | | |  |  |  |
| **学校名** | | | | 大阪府立高槻北高等学校　全日制の課程 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| **取り組む課題** | | | | 生徒の希望する進路の実現 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| **評価指標** | | | | ・国公立大学及び難関私立大学（関関同立）述べ合格者の増加  ・センター試験にチャレンジする生徒数の増加  ・希望進路実現率（自己の第1希望）の向上  ・授業アンケートと学校教育自己診断における生徒の授業満足度の向上  ・ICT稼働率の向上 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| **計画名** | | | | 坂の上の輝く青春～進路実現に向けて～ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| **２．事業目標及び本年度の取組み** | | | | | | | | | | | | | | | | | |  |  |  |
| **学校経営計画の**  **中期的目標** | | | | 【中期的目標】  １ 学力・進学保障－生徒のモチベーションを向上させ、学力の向上と進路目標の実現を図る  （１）教志コース（教員養成系コース）を定着させる。  ウ コース生が講義記録と報告、実地実習の記録と報告、レポート課題の作成等を主体的に行うことにより、進学意欲やICT活用能力の向上を図るとともに、学習内容や学習評価の合理化、効率化、適正化を図る。  （２）学力向上・進路目標実現のための３年計画（「北高スタンダード」）の活用を図る。  エ 授業の工夫・改善（ユニバーサルデザイン化、アクティブラーニングの導入等）を推進し、思考力・判断力・表現力の伸長を図る。  【本年度の具体的な取組み計画】  イ 電子黒板機能付きプロジェクターを活用するなどICTを活用した授業を実施することにより、思考力、判断力、表現力の向上につなげる。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| **事業目標** | | | | 1. ICT活用による授業の工夫・改善（ユニバーサルデザイン化、アクティブラーニングの購入）を強力に進め、「充実した質の高い、わかりやすい授業」「教員の授業力向上」につなげる。   ② 生徒の主体的・協働的な学びを促し、本校生徒の課題（弱点）である思考力・判断力・表現力の伸長を図り、希望である進路の実現につなげる。  ③ 「教志コース」（専門コース）における外部講師の講義や生徒の実習報告会等に活用することで、「教志コース」の充実を図り、先生になりたいという進路希望の実現につなげる。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| **整備した**  **設備・物品** | | | | ２・３年生HR教室に電子黒板プロジェクター（17台）   * 無線LANアダブタ、ケーブル収納ボックスを含む。 * なお、１年生については上記設備を導入済であり、教育効果を高めている状況である。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| **取組みの**  **主担・実施者** | | | | 主担： 授業改革ＰＴ（教頭・首席・教務主任・ICT委員長ほか）  実施者： 全教員 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| **本年度の**  **取組内容** | | | | * 授業改革ＰＴによる年間計画策定（４月） * ICT活用の授業実践（通年）、教科ごとの授業研究（～７月） * アクティブラーニングをテーマにした職員研修（８月） * 教職員相互の授業見学（６月・10月） * 授業アンケート及び学校教育自己診断で効果検証（９月、１月） * ＰＴ及び各教科による本年度総括と次年度の計画案検討（２月） | | | | | | | | | | | | | | | | |
| **成果の検証方法**  **と評価指標** | | | | * 国公立大学及び関関同立のべ合格者数を生徒数の40％以上(160名以上)(H27実績100名)(H28実績145名)(H29実績138名) * センター試験にチャレンジする生徒数を生徒数の60％以上(240名以上)(H27実績149名)(H28実績216名)(H29実績234名) * 第１希望の進路目標を達成できた生徒の割合を80％以上(H27：83％)(H28：83.6％) (H29：75.4％〉 * 授業アンケートで「授業に興味・関心を持つことができた」の項目の平均値を3.1以上(H29：3.1) * 授業アンケートで「授業を受けて、知識や技能が身についた」の各項目の平均値を3.1以上(H27：3.11)(H28：3.05)(H29：3.2) * 学校教育自己診断で「学習環境に満足している」という生徒の満足度を80％以上(H27：79％)(H28：78.6％)(H29：78％) * 教員のICT活用者を全教員の60％以上(H28：57.4％)(H29：66％) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| **自己評価** | | | | * 国公立大学及び関関同立のべ合格者数生徒数の40％以上（160名以上）   （H30：78名）（△）   * センター試験にチャレンジする生徒数生徒数の60％以上（240名以上）   （H30：208名）（△）   * 第１希望の進路目標を達成できた生徒の割合80％以上 （H30：71.4％）（△） * 授業アンケートで「授業に興味・関心を持つことができた」3.1以上   （H30：3.1）（○）   * 授業アンケートで「授業を受けて、知識や技能が身についた」3.1以上   （H30：3.2）（○）   * 学校教育自己診断で「学習環境に満足している」という生徒の満足度を80％以上   （H30：70％）（△）   * 教員のICT活用者を全教員の60％以上 （H30：94％）（◎） | | | | | | | | | | | | | | | | |
| **次年度に向けて** | | | | * 授業改革ＰＴによる年間計画策定（４月） * ICT活用の授業実践（通年）、教科ごとの授業研究（～７月） * 本校教諭の実践発表による職員研修（８月） * 教職員相互の授業見学（６月・10月） * 授業アンケート及び学校教育自己診断で効果検証（９月、1月） * PT及び各教科による本年度総括と次年度の計画案検討（２月）   + 電子黒板プロジェクター等の教員の活用率は大幅に向上しているが、近年の大学合格者数の厳格化の影響もあるためか、生徒の進路実現にすぐには効果が出ていない。   + この現状を踏まえ、 ①各教科においてさらにICTの授業コンテンツの充実を図る。   ②以下の新たな指標を追加する。   * 国公立大学及び関関同立のべ合格者数生徒数の40％以上（160名以上）（H30：78名） * センター試験にチャレンジする生徒数生徒数の60％以上（240名以上）（H30：208名） * 国公立大学及び関関同立のべ合格者率を15％(H30：12.8％） * 第１希望の進路目標を達成できた生徒の割合80％以上（H30：71.4％〉 * 授業アンケートで「授業に興味・関心を持つことができた」3.2以上（H30：3.1） * 授業アンケートで「授業を受けて、知識や技能が身についた」3.2以上（H30：3.2） * 学校教育自己診断で「学習環境に満足している」という生徒の満足度を85％以上（H30：70％） * 教員のICT活用者の割合全教員の80％以上（H30：94％） | | | | | | | | | | | | | | | | |